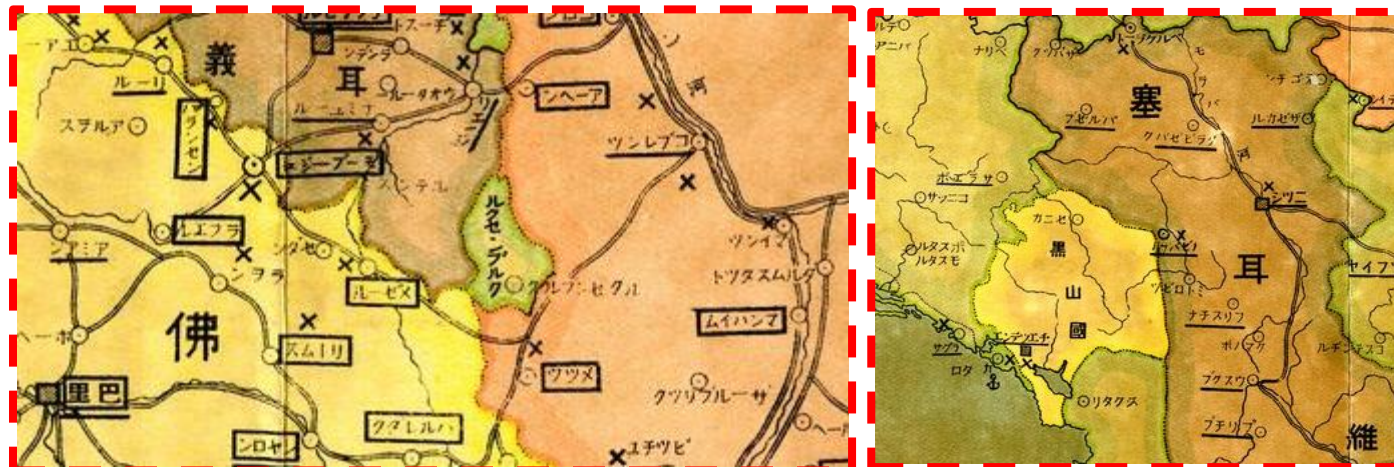


第一次世界大戦中に発行されたヨーロッパ地図



1914年（大正3）「欧羅巴戦局地図（大阪朝日新聞附録）」

桜井市兵衛家文書（当館蔵） [デジタルアーカイブへ](#)



①

②

解説

第一次世界大戦は、1914年（大正3）から1918年（大正7）まで、計25か国が参加してヨーロッパを主戦場として戦われた戦争です。20世紀初頭のヨーロッパは、**三国同盟**（ドイツ、オーストリア、イタリア（後に脱落））と**三国協商**（イギリス、フランス、ロシア）を主軸とする対立構造にありました。日本とアメリカはイギリスとの関係性から協商側に近い立場でした。そんななか「ヨーロッパの火薬庫」とも称されたバルカン半島で、1914年6月、オーストリアの帝位継承者がセルビア人に殺害されます（サラエヴォ事件）。これを理由としたオーストリアとセルビアの戦争はドイツとロシアへの戦争に拡大し、やがて世界の主要国を巻き込む大戦争へと発展しました。

戦争は長期化し、総力戦となりました。その間、毒ガス・戦車・飛行機などの新兵器も登場しています。日本は**日英同盟**を根拠として協商側で参戦し、同年8月23日にドイツに宣戦布告しました。中国の山東省の青島やドイツ領南洋諸島の占領を行っています。

資料の注目ポイント

資料は1914年（大正3）8月25日発行の大阪朝日新聞の付録です。開戦当時の列強の勢力図（イギリス…英吉利、ドイツ…独逸、フランス…仏蘭西、オーストリア…奥太利、ロシア…露西亜、など）が詳細に記載されており、現在の各国の国境とは異なっていることが注目されます。

バルカン半島に視点を移すと（②参照）、セルビア（塞耳維）やモンテネグロ（黒山国）といった国々が確認できます。開戦のきっかけとなったサラエボ（サラエヴォ）についてはオーストリアの領域として記載されています。

関連資料、展示等

名称	概要	備考
「欧羅巴戦局地図（大阪朝日新聞附録）」	桜井市兵衛家文書（当館蔵） 資料番号 N0055- 01062	デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=011-506848-1-p1
「欧羅巴戦局地図（大阪朝日新聞附録）」 複製シート	シート番号 SH00071	貸出可能。詳しくはこちら https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/bunsho/category/gakkoushiryou/493.html

参考文献

- ・ 義井博「第一次世界大戦」『国史大辞典 8』（吉川弘文館、1987年）
- ・ 日本史教授資料研究編編集部『日本史（A B 共通）教授資料 研究編』（山川出版社、2013年）